様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２７ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０９３３

研究課題名（和文）威信財から見た縄文社会の構成と交易

研究課題名（英文）A study of Prestige goods in Middle Jomon priod

研究代表者
栗島　義明（KURISHIMA, YOSHIAKI）

明治大学・公私立大学の部局等・研究員

研究者番号：６０４４５８６４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,600,000円、（間接経費）　　480,000円

研究成果の概要（和文）：縄文時代中期に東日本地域に広域的に分布するヒスイ製品は当該期の広域的な交易存在の証拠とされてきた。
糸魚川周辺で製作されたヒスイ製品は中部地方だけでなく、広く関東や東北地方にも広がっており、注視すべきは大型のヒスイ製品の出土は各地の拠点的集落にのみ限られていることにある。所謂、環状集落だけからヒスイ製品が検出されているのである。しかも注目すべき点は、ヒスイ製大珠が出土するのは集落内に作られた墓域内でも中心部に構築された墓に副葬されている場合が殆どである。ヒスイ製大珠は出土数や出土状況から判断して、集落のオサが所有し佩用したものだった可能性がたかい。

研究成果の概要（英文）：The Middle Jomon period is the time from which a large number of jade artifacts (Large jade beads) have been reported. In this time smaller number of jade beads and preforms have been widely reported outside the Itoigawa area. The distribution of large jade beads excavated sites is dense not only in Chubu area, but also Kanto and Tohoku region. I can points out that the area where sites with jade are densely distributed overlap with the area where the center of Middle Jomon culture.
Many of these sites are large settlements , and this kind of large jade beads are often associated with burials, especially center of cemetery group in settlment. I think that is proof of a large jade beads was wear by Big Man(village head).Jade distribution system , which was based on the trade goods(obsidian, shellfish, salt amber, etc) exchange system in Jomon period. And why jade distribution was so wide spread, the answer is the large jade was regarded as a Prestige good in Middle Jomon period.

研究分野：人文

科研費の分科・細目：歴史　考古学

キーワード：縄文時代　交易　威信財　ヒスイ

１．研究開始当初の背景

（１）縄文時代の装身具に対する研究は遺物形態からその機能を類推するにとどまり、その社会的機能へのアプローチが試みられることは殆ど皆無であった。僅かに人骨に伴う装身具類が検討されることはあったが、集落内の墓地との関係が分析されたことはない。

（２）ヒスイ製大珠は縄文社会の広域的活動の物証と評価されてきた。新潟の原産地から東日本の全域に分布するヒスイ製品から、縄文人が物々交換をしていた証拠とみなされていたが、東日本の全域に及ぶ広域分布の実態や交換の形態について考古学的な仮説が提示されたことは無かった。

２．研究の目的

（１）ヒスイ製品は中部日本地域で数多く出土しており、それが広域的に流通していたことは間違いないが、原産地を離れて 300km 以上も離れた地域にまで安定的に流通した社会的背景は何だったのかを明らかにする。

（２）ヒスイ製大珠の出土は環状集落と呼ばれる各地の拠点的集落からのみ出土し、小さな集落からの出土は基本的に見られない。しかも 100 基を上回る数の墓のなかでも、ヒスイ製大珠が副葬されている場所は中心部、墓地の基点である傾向が顕著となった。この理由を明らかにすることは、ヒスイ製大珠の機能・役割を明らかにすると同時に縄文社会の構造を考える場合に重要となるものと考えられる。

３．研究の方法

（１）関東各県と中部日本地域から出土したヒスイ製品の集成をおこない、どのような資料がどの遺跡のどこから、何点出土しているかという基礎的情報をデータ化した。このデータを基に関東各県、中部地域に分布するヒスイ製品の大きさや形態、伴った土器や石器などの実態を明らかとした。

（２）ヒスイ製品の集落（墓域）内での出土位置等を細かく検討し、よりミクロな分布状況の把握に努めた。とりわけ集落内のどの墓から出土したのか、従来の研究では注視されてこなかった遺物と遺構との関連性という視点での出土位置の特定に努めた。

４．研究成果

（１）ヒスイ製品の集成と分布

関東地方のヒスイ製品の集成をおこない、これまでにない精度での集成をおこなうことができた。その結果としてヒスイ製品が原産地やその周辺には極点に少なく、200～300km 以上離れた地域に数多くの製品が優先的に運び出されている実態が明らかとなった。

（２）分布実態

ヒスイ製大珠とは長さが 3cm 以上のものを指すが平均は 5～6cm である。大珠の中には 10cm を上回る大型品が 30 点ほど存在しているが、それらは原産地から離れた地域、特に南関東や北関東などに集中する。特に大型・優品は原産地周辺には皆無で、製作地を離れて遠くに運ばれているというヒスイ製大珠の分布特徴が反映されている。

（３）ヒスイ大珠の副葬

ヒスイ製大珠は他の副葬品と比べて墓壙の中から出土する傾向がたかい。関東と中部は同じ集落形態が見られるが、関東では中心部の墓、中部では周辺部の墓からヒスイ大珠が出土する。このことから集落の基点となる中心部の墓に埋められる人物がヒスイ製大珠を佩用していたことが判明した。中部地方では複数の墓からヒスイ大珠が出土することから原産地に近い地域では希少性が低く、離れた関東では希少性が増大することから最高位の人物を表示するものであった可能性が明らかとなった。

（４）ヒスイとコハクとの関係

長楕円形の形態を持つ大珠は、ヒスイとコハクという貴石を素材としている。両者は奇しくも原産地が中央脊梁をはさんで日本海側と太平洋側に位置しており、それぞれの貴

石が大珠という遺物形態へと加工された事実は重要である。ヒスイとコハクという素材を違えた大珠の分布や集落内での位置関係を分析すると、関東ではヒスイ大珠が最も貴重な財であるのに対して中部ではコハク大珠が最も重要視されていた蓋然性がたかい。

（５）装身具の意義

大珠は単なる装身具ではなく、装着する人物の集団内での地位を表示するものであった。しかしその社会的価値は一律ではなくて、原産地周辺では相対的に低い一方で 200～300km 以上離れた地域では最高位の価値を有する。これは希少性を背景として社会的価値が増幅したことを伺わせ、事実、関東ではヒスイ大珠は集落中央部の墓にのみ副葬されている。同じ現象がコハク大珠の分析・検討からも導き出され、中部地方では集落中央の墓のなかからコハク大珠が出土する現象が顕著となる。

縄文社会では、集落内での構成世帯・人物を地位や役割によって区別しており、それが内部・外部に明示できるようにさまざまな装身具を開発し、身に着けていた可能性がたかい。そうした縄文時代の社会構成や慣習への着実なアプローチが可能との研究成果が得られた点が、今回の研究における最大の成果と言える。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１０件）

１、2012 年「コハク製大珠の広域分布」『縄文時代のヒスイ大珠を巡る研究』資料集 P66-74

２、2012 年「ヒスイ製大珠の分割」『縄文時代のヒスイ大珠を巡る研究』資料集 P75-84

３、2012 年「コハクの利用と縄文社会」『考古学ジャーナル』第 627　号

４、2013 年「大珠研究の方向性と目的」『玉研究』第 10 号　P31-45

５、2013 年「大珠装着に関する一考察　～山鹿貝塚２号人骨から～」『利根川』35 号 P1-8

６、2013 年「大珠研究の意義　～威信財から集落構成を見る～」『装身具から見た縄文社会』早稲田大学 P23-33

７、2013 年「緑泥片岩製石棒の製作・流通～縄文時代に於ける資源開発と製品化に関する一考察～」『駿台史学』第 150 号 P29-53

８、2014 年「もう一つの技術～コハク製大珠の分割～」『利根川』36 号　P10-18

９、2014 年「ヒスイ製大珠の分配」『副葬品から見た縄文社会　―財の生産・流通・副葬―』P28-38

１０、2014 年「貴石の利用から見た縄文社会」『季刊考古学　別冊』（印刷中）

〔学会発表〕（計７件）

2013 年 10 月「大珠研究の意義」（早稲田大学）

2013 年 8 月「縄文時代の生業と交易」（明治大学生田アカデミー）

2013 年 2 月「ヒスイとコハク」（船橋市立博物館）

2012 年 10 月「縄文時代の装身具」（富士見市水子貝塚）

2012 年 12 月「縄文時代に於けるコハクの利用」（銚子市教育委員会）

2011 年 10 月「縄文時代の貴石利用」（桶川市教育委員会）

2011 年 9 月「縄文時代の威信財」（茅野市尖石博物館）

〔図書〕シンポジウム資料集刊行（計２冊）

・2012 年 11 月 10 日（土）『縄文時代のヒスイ大珠を巡る研究』資料集　84P

・2014 年 2 月 22 日（土）『副葬品から見た縄文社会　―財の生産・流通・副葬―』資料集　65P

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
　栗島　義明（明治大学）

　研究者番号：
６０４４５８６４

(2)研究分担者
　　なし（　　）

　研究者番号：

(3)連携研究者
　　なし（　　）

　研究者番号：